

“コロナ禍に振り返る災害支援活動”



室長 関嘉寛
(社会学部)

ヒューマン・サービス支援室と災害支援

ヒューマン・サービス支援室の前身であるヒューマンサービスセンター（HSC）は、阪神淡路大震災をきっかけとして成立しました。また、東日本大震災でHSCは支援活動する学生のプラットフォームとして機能しました。

東日本大震災支援活動と並行して、大学におけるボランティア活動の教育的意義やスクールモットーの観点から、ボランティア活動を組織的にサポートする必要性が議論されました。その結果、支援室が開設されることになりました。開設直後には熊本地震が発生し、4年間合計15回の支援活動をおこなうことになりました。

このように支援室は、災害支援と縁が深いです。災害支援にとって大切にしていることは、事前準備、ネットワークづくり、臨機応変な対応、当事者に寄り添う姿勢です。そのために、支援室では、学生に対する災害ボランティアの告知や研修、社会福祉協議会やNPO等との連携体制づくりをさらにすすめていきます。そして、最も大切な被災した当事者の声を拾い上げ、継続的に学生が活動できるようなコーディネートを充実させていきます。



- 阪神・淡路大震災発生(1月17日)
- 関西学院ヒューマンサービスセンター（HSC）発足(4月)
HSCは震災直後に何かしたいという関学生が動き出し、有志の学生・教職員が集まってできた組織



- 東日本大震災発生(3月11日)
- 宮城県へ支援活動「あいのリバスプロジェクト」開始



- ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室 設立(4月)
- 熊本地震発生(4月14日、16日)
- ▼ 熊本地震現地ボランティア活動実施(～2019年度)

熊本体験記QRコード



現地ボランティアに参加した学生にインタビューを行い熊本体験記としてHPIに掲載しています。学生たち、1人ひとりの思いをぜひご覧ください！



2016年4月、熊本県熊本地方を震源とする大きな地震が発生しました。「何かしたい」という学生が中心となり学内での募金活動を実施したほか、7月からは「熊本地震現地ボランティア活動」をスタートしました。事前打ち合わせを通じて学生自身が現地での活動を企画し実施することを大切にしながら各回様々な企画を行ってきました。この活動は4年間で計15回、参加した学生は延べ302名。参加した学生からの自主的な発案によりさくらFMでラジオ番組を制作し、多くの人に伝えていくなど、被災地への関心を継続させるための活動も行われました。



- 西日本豪雨災害発生(7月)
- ▼ 西日本豪雨水害ボランティアバス実施



2018年7月に広島県、岡山県、愛媛県などの広範囲にわたり記録的な大雨による災害が発生しました。支援室から3回ボランティアバスを派遣し岡山県倉敷市真備町の災害ボランティアセンターを通じて活動を実施し延べ79名の学生が活動に参加しました。泥かきや家具の搬出など様々な活動に取り組みました。また、この活動に参加した有志の学生で「レモネード大作戦」というチャリティプロジェクトを立ち上げ、売上金を寄付するという活動も行われました。



- 熊本地震現地ボランティアフォーラム
「継続的な活動が生み出した学生と被災者の相互支援の形～『熊本現地ボランティア』4年間の活動を振り返って～」
2016年から2019年度まで行われた熊本地震現地ボランティア活動の集大成として4年間の活動を振り返ります。参加した学生からの活動報告や現地の住民の方にもご登壇いただき感想などをお話していただく予定です。詳細が決まり次第改めてお知らせいたします。



2021年復興・減災フォーラム 学生円卓会議に登壇

復興・減災フォーラムとは…？

地震や水害など過去の被災地での経験などを共有するために関西学院大学災害復興制度研究所が毎年開催している集会です。今年は「Withコロナと災害～どう創るニューノーマル」をテーマに開催され、全国被災地集会の第1部「学生円卓会議」には熊本地震現地ボランティアに参加した学生2名が登壇しました。

復興・減災フォーラムでは熊本地震ボランティア経験者を始め九州で活躍する学生さんたちの率直な意見を聞くことができました。フォーラムを通して災害支援の現場において学生や若い方の力は大変大きいと改めて確信しました。何もできないと思わず、これからも災害復興の場において学生の力を発揮してほしいと思います。



斉藤容子先生
(災害復興制度研究所)



登壇者の神保千琴さん(法学部2年生)にインタビュー！

Q1. 他団体の活動報告やお話の中で印象的だったものはありますか？

熊本学園大学さんの情報収集力と行動力が印象に残りました。熊本豪雨発生2日後に活動を開始できたこと、ニーズ調査によっていち早く被災者の声をキャッチしたこと、豪雨から2か月後には交流の場を作ったことなど、的確な情報を基に即座に行動し、被災した方のために活動している様子は圧巻でした。

Q2. 災害支援や復興・減災において大切だと思うことは何ですか？

被災地・被災者に寄り添うことです。災害時は現地の方と外部が手を取り合って課題に取り組む必要があります。支援する側は被災者の気持ちに寄り添って対話することで、何が必要とされているかを知ってから行動を起こすことが大切だと思います。

Q3. 最後に、フォーラムに参加した感想を教えてください。

フォーラムでの活発な議論の中で、災害支援に取り組む姿勢や工夫、課題など、今後自分が支援活動を行う際に大切にしなければならないことを多く学び、災害への当事者意識をより抱きました。今回のような共有や反省の場を通して次なる災害に備えることができるので、今できることや自分にできることは何かを考え、新たな情報発信の場や活動の場を作って広めたいです。



フォーラムの様子



学生COと防災

もし自分の住む地域で 災害が起こったら…

突然ですが、**防災知識クイズ**

防災グッズって大きく分けると何種類？ ① 1種類 ② 2種類 ③ 3種類
答えは学生COのInstagramまたはnoteをチェック！



Twitter



Instagram



note



有志学生によるZoomイベントを開催します！

「コロナ禍と防災 今ここで地震が起きたら…」
大学生と一緒に考えませんか？

日程：3月21日(日) 13:00~15:30
要事前申込：右記のQRコードからお申し込みください。
[締切3月13日(土)]
主催：KG熊本地震現地ボランティア有志
共催：ヒューマン・サービス支援室



熊本地震現地ボランティアに参加者した関学生による『KG熊本地震現地ボランティア有志』がオンラインでイベントを開催します。ゲストに益城町で語り部として活動されている永田忠幸さんなどをお招きし、地震が発生した際の避難生活や被害について、またコロナ禍での災害に備えてできることなど講演会形式でお話を伺います。その後、参加者の皆さんとともに、交流会形式で今から準備しておけることを考えます。

もしも今ここで地震が起こったら、あなたはどんな行動をしますか？「コロナ禍と防災」というテーマで、今ここで起こるかもしれない地震に備えて、私たちに何ができるのか一緒に考えませんか。2016年の熊本地震を経験した現地の方々や、現地ボランティア参加学生が想いを語ります。大切な命を守るために、一人ひとりができることを考えるきっかけにしたいと思います。



企画メンバー
今村康佑さん
(国際学部3年生)

私たち学生COは、1995年の阪神淡路大震災発生時に、「被災地のために、自分たちに何かできることはないか」の強い思いから発足したHSCの思いを引き継ぐ団体です。その思いは現在も強く、防災企画の運営や防災情報の発信等を通し、知識を高め合い、災害に向き合っています。

防災の日(9月1日)企画

ミーティングで防災について考える機会を設けました。避難所運営ゲーム、防災クイズなどを通して学び、実際に災害が起きたときに自分たちにできる行動について考え合いました。

サクッと学べる初心者防災

防災についてもっとたくさんの人に知ってもらいたいと考え、Instagram、noteで投稿しています！上の問題の答えも掲載しています。1分でできる初心者防災をテーマにしているので、ぜひ上のQRコードからご覧ください。



ボランティアの相談や情報提供など、ボランティアに関わることなら何でもご連絡ください！

ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原1-1-155 西宮上ヶ原キャンパス正門左手 門衛室隣

☎ 0798-54-6061 (内線: 30146)

✉ kg.hssso.info@kwansei.ac.jp
HP: https://www.kwansei.ac.jp/c_volunteer



SNSも情報発信中！



[開室時間] 平日8:50~16:50 (11:30~12:30は閉室)
※夏期、開室時間の変更あり (HPに記載)
土日、祝日、夏季、冬季の一斉休業期間は終日閉室

神戸三田キャンパスでも
週3回開室中!!

アクセス

この看板が目印



ヒューマン・サービス支援室

